

オホーツクの農業

—AGRICULTURE—

オホーツク地域は、小麦やてん菜、馬鈴しょを主体とする畑作やたまねぎ、酪農・畜産など広大な土地資源を活かした農業が展開されています。

農業産出額は、十勝に次いで道内2位の規模となっており、食料供給地域として重要な役割を担っています。

また、気象や土地条件などの違いにより、斜網、北見、東紋、西紋の4地域に大別され、それぞれの条件を活かし、地域ごとに特色のある農業が営まれています。

農家戸数の減少や高齢化が進行する中、低コスト・省力化生産や農畜産物の付加価値向上、地産地消の拡大に向けた取組が広く行われています。



小麦畑(網走市6月)

■本道農業に占める管内農業の割合

区分	単位	オホーツク	北海道	対全道比率
農家戸数	戸	3,958	37,594	10.5%
販売農家	戸	3,632	32,232	11.3%
自給的農家	戸	326	5,362	6.1%
耕地面積	ha	165,220	1,138,000	14.5%
田	ha	1,614	220,700	0.7%
畑	ha	163,590	917,300	17.8%
1戸当たり耕地面積(参考)	ha	41.7	30.3	137.6%
作付面積				
水稲	ha	849	95,000	0.9%
小麦	ha	30,100	132,300	22.8%
馬鈴しょ	ha	15,745	48,500	32.5%
てん菜	ha	20,700	51,200	40.4%
大豆	ha	4,130	45,300	9.1%
たまねぎ	ha	8,503	14,900	57.1%
収量				
水稲	t	4,880	562,400	0.9%
小麦	t	177,300	717,100	24.7%
馬鈴しょ	t	662,744	1,916,000	34.6%
てん菜	t	1,393,000	3,403,000	40.9%
大豆	t	11,800	115,600	10.2%
たまねぎ	t	462,480	752,500	61.5%
乳用牛	頭	114,920	842,700	13.6%
(1戸当たり)	頭	159.2	156.6	101.7%
肉用牛	頭	72,200	566,400	12.7%
(1戸当たり)	頭	247.3	259.8	95.2%
豚	頭	38,917	759,600	5.1%
(1戸当たり)	頭	2,594.5	3,977.0	65.2%
採卵鶏	千羽	266	6,311	4.2%
生乳生産量	t	583,478	4,146,981	14.1%

資料：農家戸数は「2020年農林業センサス」、耕地面積は「農林水産統計(令和6年市町村別耕地面積調査)」、作付面積及び収量は「農林水産統計(令和5年作物統計調査)」(※水稲のみ「農林水産統計(令和6年作物統計調査)」)
乳用牛以下に係る全道の飼養頭数及び生乳生産量は「農林水産統計(令和5年畜産統計調査)」、オホーツク管内の数値は北海道農政部調べ(※生乳生産量についてはホクレンの委託乳量)

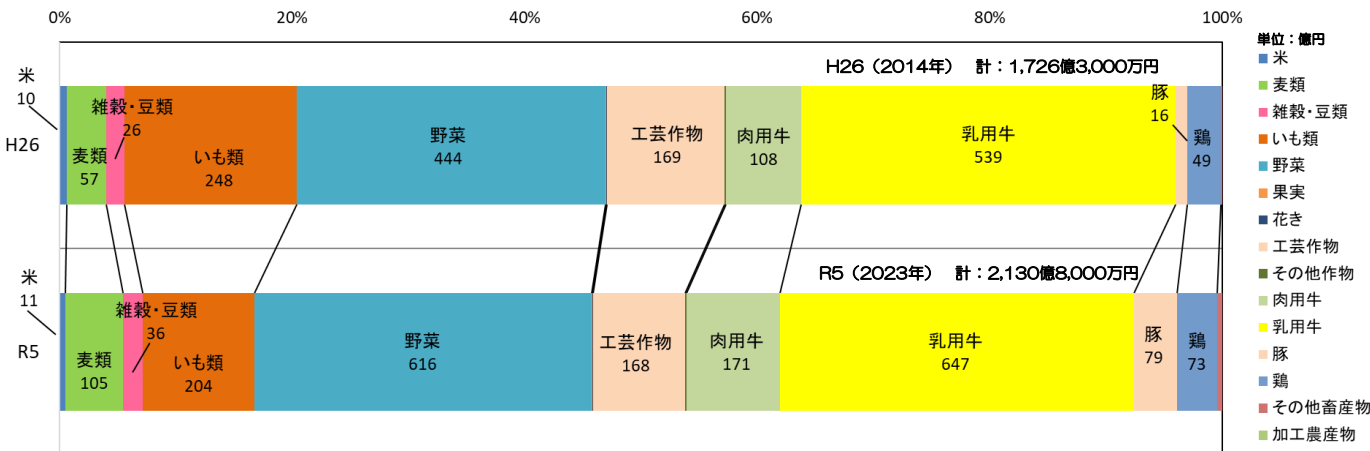
■地域別農業の特色

区分	管内計	斜網地区	北見地区	東紋地区	西紋地区
農家戸数(戸)	3,958	1,957	1,220	527	254
耕地面積(ha)	165,220	73,970	35,530	25,760	29,960
1戸当たり耕地面積(ha)	41.7	37.8	29.1	48.9	118.0
農業産出額(億円)	2,130.8	975.6	560.0	350.5	244.7
うち耕種(億円)	1,143.1	629.0	440.4	64.1	9.6
うち畜産(億円)	988.3	346.8	119.7	286.4	235.4
1戸当たり農業産出額(千円)	53,835	49,852	45,902	66,509	96,339
10a当たり農業産出額(千円)	129	132	158	136	82

資料：農林水産省「2020年農林業センサス」・「農林水産統計」
注1) 農家戸数は「2020年農林業センサス」
耕地面積は農林水産省「農林水産統計(令和6年市町村別耕地面積)」
農業産出額は「令和5年市町村別農業産出額(推計)」
1戸当たり耕地面積及び農業産出額、10a当たり農業産出額は上記資料より参考値として算出

斜網地域 (網走市・大空町・美幌町・津別町・斜里町・清里町・小清水町)	てん菜・馬鈴しょ・麦類を中心に機械化された大規模な畑作農業を展開する地域であり、斜網地域だけで管内農業産出額の耕種部門の57%を占めます。
北見地域 (北見市・訓子府町・置戸町)	たまねぎ等の野菜を基幹として、水稲・酪農などの生産性の高い農業を展開する地域で、特にたまねぎは全道収穫量の42%を占める大産地です。1戸当たり耕地面積は29.1haと狭いものの、10a当たり農業産出額は158千円と管内トップです。
東紋地域 (佐呂間町・湧別町・遠軽町)	酪農を基幹として、たまねぎ・かぼちゃ・ブロッコリー・アスパラガス等の野菜や青しそ等の特用作物などに取り組み、工夫をこらした農業を展開する地域です。1戸当たり耕地面積は48.9haと酪農地帯としては狭いですが、1戸当たり農業産出額は約6千7百万円と管内平均を上回ります。
西紋地域 (紋別市・滝上町・興部町・西興部村・雄武町)	草地等の土地基盤を活用した大規模な酪農を展開しており、1戸当たり耕地面積は118.0haと管内では最も大きい地域です。農業産出額に占める畜産の割合は96%で、1戸当たり農業産出額は約9千6百万円と管内平均を大きく上回ります。

■作物別農業産出額の推移



オホーツクの林業

—FORESTRY—

管内の森林面積は、769千haで全道森林面積の14%を占め、道内の主要な木材生産地となっています。

所管別では国有林56%、道有林14%、一般民有林30%となっており、国有林、道有林は天然林の割合が高く、一般民有林は人工林の割合が高くなっています。

近年、カラマツ及びトドマツ人工林を中心とした森林資源が利用期を迎え、道産木材に対する需要が見込まれています。森林資源の利用が進む一方で、植林されずに放置される伐採跡地が増加し、大きな課題となっていることから、計画的な伐採と植林による森林資源の循環利用を推進しています。

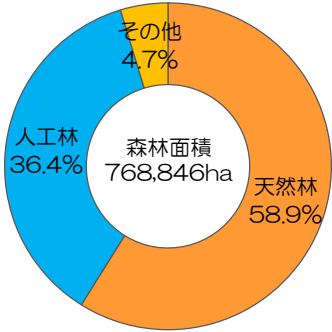
木材の加工を担う木材産業は、製材工場をはじめ集成材工場、道内有数の合板工場などが立地しており、豊かな森林資源を背景として地域経済の発展を支えています。

また、管内では森林認証を他地域に先がけて取得しており、管内森林面積に占める認証森林の割合は、82%にも及んでいます。環境に優しい持続可能な森林経営を通して、林業の活性化や地域ブランドの確立が期待されています。



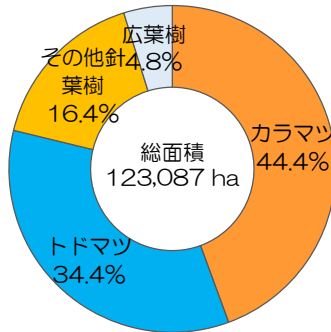
カラマツ人工林（手前）とトドマツ人工林（奥）
（遠軽町）

■形態別森林面積



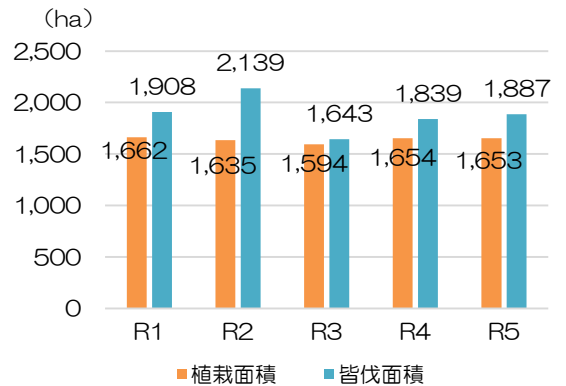
（令和5年度北海道林業統計）

■一般民有林人工林の樹種別面積比率



（オホーツク総合振興局林務課調）

■管内一般民有林の植栽・皆伐面積



（令和5年度北海道林業統計）

■全道林業に占める管内林業の割合

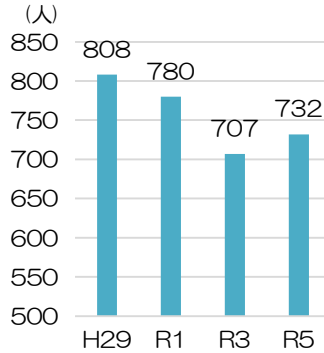
区分	管内	全道	対全道比
森林面積 (ha)	768,846	5,535,870	13.9 %
国有林	430,869	3,066,156	14.1 %
道有林	108,127	607,995	17.8 %
一般民有林	229,850	1,861,719	12.3 %
森林蓄積量 (千m ³)	156,349	875,613	17.9 %
針葉樹	99,042	457,409	21.7 %
広葉樹	57,307	418,204	13.7 %
造林面積 (ha)	2,234	8,752	25.5 %
林産物生産量			
素材 (千m ³)	930	4,297	21.6 %
製材 (千m ³)	159	632	25.2 %
合板 (千m ²)	41,387	45,654	90.7 %
単板 (千m ²)	90,423	93,719	96.5 %
チップ (千m ³)	164	1,120	14.6 %
集成材 (千m ³)	8	23	34.8 %

（令和5年度北海道林業統計 林産物生産素材管内分はオホーツク総合振興局林務課調）

（注）国有林には林野庁所管以外も含む。造林面積には、天然更新を含む。

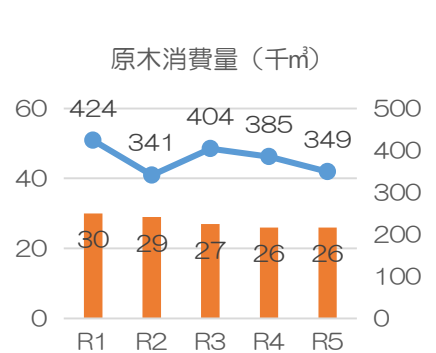
※合板は4mm換算、単板は1mm換算

■管内林業労働者数



（令和5年度林業労働実態調査）

■管内製材工場数及び原木消費量



（オホーツク総合振興局林務課調）

■一般民有林の森林資源の推移

年度	総数		人工林		天然林		無立木地面積 (ha)
	面積 (ha)	蓄積 (千m ³)	面積 (ha)	蓄積 (千m ³)	面積 (ha)	蓄積 (千m ³)	
R1	230,482	42,912	124,089	28,533	97,645	14,379	8,748
R2	230,317	43,065	123,581	28,378	97,713	14,687	9,024
R3	230,277	44,748	123,359	29,996	97,642	14,752	9,276
R4	230,106	44,972	123,158	30,094	97,681	14,879	9,267
R5	229,849	45,077	123,087	30,121	97,374	14,956	9,389

令和5年度北海道林業統計（蓄積分はオホーツク総合振興局林務課調）

オホーツクの水産業

—FISHERY—

管内の水産業は、オホーツク海沿岸海域を漁場とするホタテガイ桁網漁業やサケ定置網漁業、沖合海域を漁場とする沖合底引き網漁業を中心に営まれています。

令和5年の振興局別の漁業生産は数量・金額ともに管内が全道一で、数量で30万7千トン、金額で765億円となっています。

北海道のホタテガイ漁業は、持続可能な漁業で獲られた水産物であることを証明する国際認証である「MSC認証」を取得しているほか、管内の海域はホタテガイのEU向け輸出生産海域として指定を受けるなど、国際的な競争力の強化を図っています。

また、秋サケについても、管内ではEU輸出に向けた出荷体制の整備が進められるなど、国内流通のみならず、海外への輸出促進が図られています。



秋サケの陸揚風景（斜里漁港）

■ 漁業生産（令和5年）

区分		ホタテガイ	サケ	スケトウダラ	タラ	マス	その他	合計
管内	漁獲量 (t)	210,013	35,468	33,890	4,180	200	23,616	307,367
	漁獲高 (百万円)	43,923	23,050	1,735	959	96	6,765	76,528
全道	漁獲量 (t)	423,756	58,369	111,407	41,451	2,450	497,482	1,134,915
	漁獲高 (百万円)	104,551	38,861	8,504	10,144	1,229	128,322	291,611

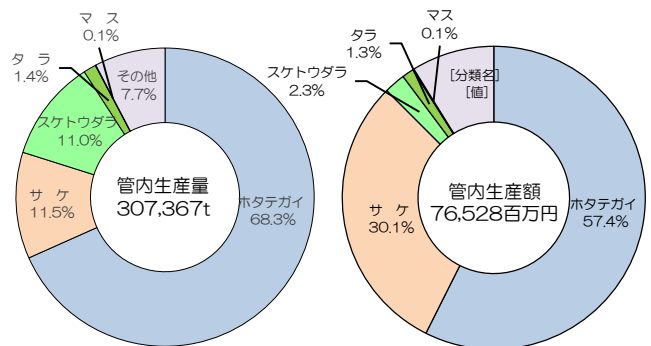
（令和5年水産現勢）

■ 漁業概要

区分	経営体数 (戸)	就業者数 (人)	漁港数 (港)	港湾数 (港)	漁船数 (隻)
管内	805	3,133	第1種 11 第2種 6 第3種 0 第4種 4 計 21	2	2,056
全道	11,089	24,378	第1種 167 第2種 38 第3種 18 第4種 20 計 243	41	22,250

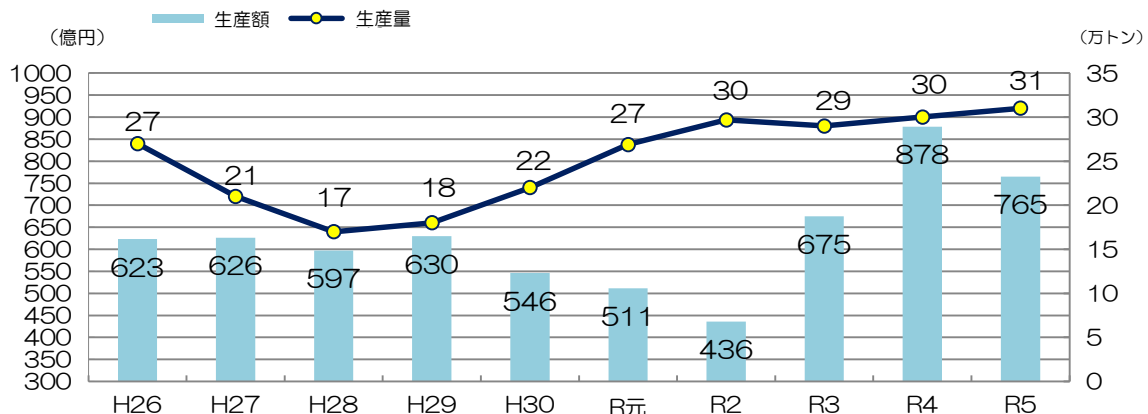
（2018年漁業センサス、北海道の漁港一覧（令和5年4月1日現在）、北海道漁船統計表（令和4年））

■ 管内主要魚種の生産量・生産額構成比（令和5年）



（令和5年北海道水産現勢）

■ 管内の漁業生産額・生産量の推移



（令和5年北海道水産現勢）